

憩いと賑わいの空間誕生  
奥の細道むすびの地記念館



4月8日、桜咲く船町水門川沿いに、「奥の細道むすびの地記念館」がオープンしました。

市は、平成20年の市制90周年を契機に、中心市街地の活性化に向け、奥の細道むすびの地周辺に「憩いと賑わいの空間」づくりを進めてきましたが、同記念館はその拠点となるものです。

開館記念式典では、小川市長が「俳句文化や交流産業の振興、中心市街地の活性化の推進を図るとともに、西美濃地域の観光拠点となる施設としたい」とあいさつ。その後、石川市議会議長や俳人で同記念館名誉館長の黛まどかさんらとともに、ゆりかご保育園児たちも一緒になっ

て、テープカットを行いました。

館内の展示は、映像をふんだんに盛り込んだものが多く、なかでも200インチの3Dシアターには大勢の人が訪れ、入館待ちの行列ができるほどでした。

この日はオープニングイベントとして「大垣祭軸特別曳揃え」や「舟

下り芭蕉祭」、「親善大使サミット」、「観光交流物産展」、大垣市マスコットキャラクター「おがっきい」のお披露目など、さまざまな催しが行われました。

また、大垣駅通りでは元気ハツラツ市も同時開催され、中心市街地は大勢の人々に賑わいました。



今年の大垣まつりは5月12日、13日に行われます。13両の軸が勢ぞろいし大勢の皆さんに楽しんでいただけたらと思います。お子さんや若者にも参加してもらい、ふるさとの伝統文化や城下町大垣の魅力や全国に発信していきます。



幼い頃には、13両の軸が戦前の姿で復元されるとは思ってもおらず、今回の再建を大変うれしく感じています。また、お囃子や掛芸などのソフト面は伝承できなくなる恐れもあり、今回がラストチャンスだったのではと思っています。

その後、濃尾大地震や太平洋戦争で多くの軸を失いましたが、地域の皆さんの熱い思いにより再建が進み、私が小学生の頃の昭和30年代には、9両の軸で巡行していました。当時、私が住んでいた本町の軸はまだ再建されておらず、3年に1度持ち回りでやってくる神楽軸の巡行当番を楽しみにしていたのを覚えています。

大垣まつりの軸は、慶安元年(1648年)藩主戸田氏鉄公によって八幡神社社殿が造営された時、城下10か町が10両の軸を造り曳き廻されたのが始まりとされています。延宝7年(1679年)には、神楽軸、大黒軸、恵比須軸の3両を当時の藩主戸田氏西公から賜り、計13両となりました。

市長の  
おがっきん

大垣祭軸 70年ぶりに勢ぞろい

大垣市長 小川 敏